

孤独を消す農園を作ろう

臨済宗 妙心寺派 安国寺住職 浅野泰巖

わたしが僧侶の道に入ったきっかけは、ドストエフスキーのこの言葉による。それは『罪と罰』だったと思うが、ロシアはキリスト教の国である。弟子が師に、苦しみ悩みを消すにはどうしたらよいかと問うところがあつた。師は、おまえが悩み苦しむ者のところへ行けば、その悩み苦しみは消えるという箇所があつた。

人の悩み苦しみの半分は、孤独ということだ。孤独が人を苦しめ、時には死へつれて行く。だから私と同じように、辛い人のところへ行けば、心が合い魂が触れあつて安らぎが生まれ、お互いなんとかしてここを脱しようという力が生まれてくる。

悩み苦しむ人と言つても、それを比べる人がいる。私は足、貴方は手。私はお金、貴方は健康。私は恋、貴方は子供。同じ病気にしても、癌は癌で、初発見の人と再発の人の苦しみ深さは違ってくる。

でも少しでもそこに相手に近づこ

うとする心さえあれば、苦しみ痛み悲しみを超えて、人間愛が生まれ、いまこの時貴方に会えてうれしい心が生まれてくる。それが次には、一人ひとりの心をいやしてくれる。

僧侶の道を歩いている私だが、だからといって私に力があるわけではない。ただ私は私の苦しみがあり、恋しさもあつて、誰かとの出合いを待っているから、貴方のそばにいたいと思つている。貴方の話を聞かせてくれないか。話してくれたら次は私の話を聞いてもらえないだろうか。

私は大工の父を親として生まれたが、農業が好きだ。元々、大地がなければ生き物は生まれてこない。海の生き物だって、陸地の栄養があり、海の広さあつて、海を支えているから海なのであろう。「人はみな、土より生まれて土に生き、土の思いを受け土に隠る」だ。人は大地より離れ、自分を生かしてくれる土地を持つていないから、根無し草のよう

になつてしまふ。かといつて、個人所有になつたら、また他と比べたり、土地への執着心が生まれてしまふ。

つらい時、苦しい時、悲しい時、とにかく元気がなくなつた時、そこに行けば元気になれる土地（農地）があるのがある。家のある所。そんなふるさとのような、実家のような

農園をつくれなにか。

しかし誰でもかかれでも入れるのではない。そこではみんな仲間だから、殺すこと、盗む

こと、男女の性の乱れ、うそたわごと、酒乱の者だけはお断りだ。仏を父としキリストを母とし、いや神を父とし観音を母とし、諸々の神仏と語り合う新しき村だ。そんな家を愛媛の四国のどこかに作ろうではないか。

まず初めにするのは、私と貴方が会つて一緒にお茶を飲みながら、写真を描くことだ。どんな人だつて何か出来る仕事がある。寝る所、食事をする所、話できる仲間、みんなの実家だ。疲れたら帰つて来たらしい。



イラスト：上本 藍

浅野泰巖

臨済宗妙心寺派安国寺住職

1948年宮崎県生まれ、愛媛県東温市にある安国寺住職。自殺を志願する人の相談に乗るなど、自殺防止に取り組んでいる。

臨済宗妙心寺派安国寺

〒791-0311

愛媛県東温市則之内甲2781

TEL&FAX : 089-966-3647

NPO法人

自殺防止ネットワーク 風

安国寺も参加している「自殺相談の駆け込み寺」ネットワーク。全国二十ヶ寺の寺院や住職の賛同を得てスタートしています。

自殺予防・防止の課題に取り組む賛同者と共に、自殺に駆られている方々並びに自殺未遂者及び自殺者の遺族の方々に対して、相談並びにケアのできる人、時間、場を提供し、自殺予防、防止活動に本格的に取り組んでいます。相談は各寺院に直接連絡をしてください。